



一二月に入ると早々にMさんからジャガイモを植えるから準備せよ、と連絡が入った。ついでに冬の間さぼっていた草取りや施肥について小言をもらった。いよいよ始動。「おもしろいもんだね。春になると動きたくなくなるからね。」

これについては、まったく同意。植物も動物も春を待つて動くというより、動かすにはいられなくなるのが春という季節なのかもしれない。

やはり動きたくなくなったらしい妻の知人が久しぶりに訪ねてきて、これから上京するのだと言った。羽生結弦のショーを見に行くのだ。羽生結弦のファンは老若男女数多いのだろうけど、ことに熱烈な「推し」高年齢女性がいるというのは何となく知っていた。身近にその人がいたことに少々驚いたが、話を聞くにつけその熱意にはもつと驚かされた。こんなおば様たち数万人に囲まれてその期待にこたえるために骨身を削る羽生結弦はやはり並みの人ではないと思った。

「推し」を持った経験のないぼくたち夫婦にとつては、どうしたらそこまで好きになれるのか疑問なのだが、一方でそれほどの「推し」を持たせたら幸せだろうとも話し合った。どこが好きか、どれだけ好きか、どう尽くしているか、夢中で話している知人の表情は、

どう見たって幸せそのものなのだ。

畑の師匠Mさんは中海沿いに代々続く旧家の人で、日本三大船神事の一つ、ホーランエンヤを担う一人だ。十年に一度の祭りで前回は四年前に行われた。十万人以上の人が三日間詰めかけるので、ぼくが見に出かけたときも人波をかいぐらならないといけないほどだった。祭りの呼び物は百隻にも及ぶ絢爛豪華な権伝馬船団の航行で、ことに船上で舞う少年、若者の踊りが美しい。若者たちは石川五右衛門風の衣装で勇壮に舞う剣權(けんがい)と艶やかな化粧をした女姿の采振り(ざいふり)として、祭りの花形となる。Mさんの息子はその昔采振りとして船上にあった。写真を見せたら驚くほどの美形だった。

「もう大変だったわね。おばばやつが息子を囲んで〇〇ちゃん、チューさせてーってだれんもかれんも抱きついてきなーけんねえ。」

ぼくは想像して大笑いしながら、この祭りが三百年以上も続いている理由の一端がわかった気がした。昔も今も変わらず「推し」を求める人たちがいて、ホーランエンヤは地元への「推し」供給システムとして機能し、地域の一体感を醸成してきたのにちがいない。その昔推されまくった息子さんは、その後ずっと熱心に剣權、采振りを育てているのだそうだ。

専業ババ奮闘記 (その2)136

木幡智恵美

コロナ感染 (4)

翌日、保健所から連絡があり、しばらくしてピンポンが鳴った。電話で言われた通り、新型コロナウイルス感染者向けの説明書、血中酸素濃度測定器、記録用紙などが入った袋が玄関前に置かれていた。昼前には、医師から電話が入り、のどの痛み、咳、痰、微熱などの症状を伝えると、それらが緩和する薬、トローチも出してくれるとのことだ。昼過ぎには看護師から電話があり、三日に発熱があつたことを話すと、十三日まで自宅で療養だと言われる。「症状が出てから十日間が療養期間になります」とのことだが、熱は感染する前に息子からうつったものだと伝えた。とにかく、夫が帰るまでは家に籠ることにしよう。その後、薬剤師から連絡があり、薬が届けられた。家に居ながらにして、こんなにももらえるとは。

家から出られないので、洗濯、掃除、調理などの家事の他は、点訳をしたり、録画したドラマや映画、手話のビデオを見たり。一日がとてつもなく長く感じられる日々が続く。夫は狭い病室に押し込められ、もつと退屈な日々を過ごしていることだろう。メールでは、娘から毎日孫たちの様子を撮影した動画が送られてくるのとだ。娘一家も、夫婦と三人の子どもたちと、家の中や庭で過ごしている様子。買物の件は、お願いしたものを、同僚が玄関先に置いてくれたということだ。保健所を通じて食料をお願いしたら、パックご飯やレトルト食品が届けられたとのこと。

我が家では、おかずやご飯の残りを冷凍している。一人なら、それを出してチンすれば済む。息子は買い置きのパゲティや焼きそばが主だが、たまに冷蔵庫から材料を出して適当に調理して食べているようだ。調理師免許を取得したことは、就職に有利だったし、こういう時に役立つ。

夫が陽性になったのが八日。息子が、「保健所から連絡があつて、今日から解禁だつて」と言つて二階から降りて来たのが十五日のこと。息子は「今晚からお袋の料理食べるわ」と言うので、すぐにポルティで出て行つた。早速台所に行き、冷凍していたミンチを出す。今夜はハンバーグだ。私の禁が解けるまでは別々に食べるけど、個食からの解放まであと一息。

30代フリーター ロシアのウクライナ
侵攻開始から1年たつて印象づけられ
ることのひとつは、巨人を相手に互角
に戦い続けるウクライナの強靱さだ。
年金生活者 ロシアという「帝国」の
「服属国」としての地位を脱し、「主
権国家」「国民国家」として自らを形
成していかうとするウクライナ国民の
意志をロシアは武力でくじこうとし
た。それが逆に国家形成の意志を勢い
づけ、ロシアに反撃する力のもとに
なった。

17世紀のウエストファリア条約を境
に形成されたヨーロッパの「主権国
家」、そしてそれが民主化された「国
民国家」は「帝国」への抵抗を通して
形成された。当時のヨーロッパの帝国
だった神聖ローマ帝国がその標的とな
った。それと同じように、ウクライ
ナもまたロシア「帝国」への抵抗を通
して自らを「主権国家」「国民国家」
として形成しつつあった。

それを阻もうと襲いかかったロシア
は、逆にそうした国家形成を加速して
いう言葉があるくらい「攻撃」する側
よりも「防御」する側が優位に立つこ
とが多いという説がある。これはむし
ろフィジカルなレベルよりもメンタル
なレベルに当てはまりやすいと考えた
ほうがいい。

かつての東映ヤクザ映画で、高倉健
の演じる主人公がほかのヤクザからさ
んざん「攻撃」を受け、それに耐えに
耐えた末に、圧倒的な力を爆発させる
ストーリーが繰り返されたのは、「防
御」の優位性が広く信じられているこ
とによる。ロシアから「攻撃」を受け
たウクライナ国民が「防御」において
予想外の力を発揮しているのも同様に
考えることができる。今のロシアはそ
れを模倣し始めている。

またロシアはこの戦争の過程で「主
権国家」「国民国家」の側面を広げて
いったように見える。つまり「帝国」
の原理だけでは長期化する戦争を持ち
こたえられないと考え始めたと思え
る。朝日新聞は「学校や大学では、徴
兵や動員を視野に入れた軍事訓練や、

しまった。他国からの侵略ないし威嚇
が、それまであやふやだった国家とし
ての輪郭や骨格を生成していくという
先例はこれまでの近代の歴史にも見る
ことができる。アメリカをはじめとし
た列強による外圧が引き金となった明
治維新もそうだった。南北に分断され
ていたベトナムが主権を持つ統一国家
になったのも、アメリカによる侵略戦
争があつたからだ。

ウクライナが徹底抗戦を継続できて
いるのは、西側諸国からの武器供与だ
けによるのではない。国民に抵抗する
意志がなければ、武器はガラクタにな
る。その意志も「家族や身近な人を守
りたい」という個人的な意志だけで
は、ここまで有効な抵抗を続けること
はできなかつたはずだ。国家という公
的な存在を守りたいという意志なしに
は、これほど大がかりな抗戦は組織で
きない。

30代 他方、ロシアのほうも一歩も退
かない構えだ。

年金 プーチンが侵攻1年を前にして
侵攻を肯定する愛国的な授業の導入が
次々と決まっている」と報じる(2月
24日朝刊)。「愛国」は「主権国家」
「国民国家」に特有のイデオロギーで
あり、ロシアはその形成を身体(軍事
訓練)と言葉(授業)を通してはかる
うとしている。それが消耗戦に耐える
力を養うのに寄与するだろう。

30代 朝日新聞は西側諸国によるロシ

行つた演説を朝日新聞は「大義変遷」
「非ナチ化」から『祖国防衛』へ」
との見出しで報じた(2月22日朝
刊)。この「変遷」をひとりで表せ
ば、「攻撃」から「防御」への姿勢の
転換といふことができる。

開戦当初のプーチンはウクライナの
「非ナチ化と非軍事化」を掲げた。こ
れはゼレンスキー政権の転覆と軍事的
な無力化を目指した点で「攻撃的」と
いうことができる。これに対し、1年
後の演説では「欧米の包囲網を第2次
大戦のナチスドイツの攻撃になぞら
え、国民に『祖国防衛』を訴えた」(2
月22日朝日新聞朝刊)。最初の一撃で
倒せるはずだった相手の予想外の抵抗
に遭い、「防御的」な姿勢への転換を
余儀なくされたということができる。

30代 一歩あらずさりしたようにも見
える。

年金 この転換はロシア国民を落胆さ
せるどころか、逆に粘り強さ、耐久力
を発揮させる方向へ作用したはずだ。
軍事の分野では「攻撃3倍の法則」と

アへの制裁が除だらけになっているさ
まも報じていた(2月20日朝刊)。欧
米が対口貿易を減らしても、インドや
中国がその一部を埋め合わせているか
らだ、と。

年金 この記事の中で国際政治学者の
鈴木一人は「制裁強化が必要で、鍵は
天然ガスのロシアへの依存度を下げる
こと」と指摘している。だが、依存度
を下げれば下げたでロシアは裏ルート
を拡大するだろう。戦争の長期化は避
けられない。それは東西冷戦が世界の
構造となった歴史の縮小版を予感させ
る。

私たちはこれから先、ふたつの構造
化した戦争を見続けることになるかも
しれない。ひとつはウクライナで流血
の続くそれであり、もうひとつは米中
の無血の戦争だ。それが世界経済の様
態を変え、その変容が戦争を支え続け
るといふ循環構造が形成される。東西
冷戦と違うのは経済のグローバル化が
その構造を支えるだろうということ
だ。

ニュース日記 868
中村 礼治

1年を経て